

第2回THA連絡会 議事録

日時：2016年10月1日 10:00-12:05

場所：品川区総合体育館 B1 会議室

出席者：THA 正会員及び委員 31名、THA 役員 11名、

議事：菅野理事の司会で開会した。

1 和田会長挨拶

おはようございます。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

「規約に則り、全員参加で、開かれた協会としていきたい」という会員の皆様の総意を受けて、新生THAは昨年11月に発足し、4月には総会を開催し、新体制がスタートしました。総会では、我々THAの今年の目標は大きなことを掲げるのではなく基盤整備に力を注ぐ事とし、3つの事を掲げました。

- ① 登録チームを増やしチームとの連携を図る。
- ② THA,主催、共催の競技会を確実に運営する。
- ③ ホッケーの普及を図る。 という3本柱です。

同時に実現したい夢として「強い東京」、すなわち日本リーグに出場できる力を持つチームを創るため、強化委員会を発足させると述べました。

本日はチーム(=正会員)との連携を図るということで第2回連絡会を開催し、今年度上半期のTHAの活動をご報告し、今後の取り進めについて皆様のご意見を賜りたいと思います。短い時間ですが皆様の活発なご討議をお願いいたします。

2 出席者自己紹介

3 上半期実績報告

(1) THAの現況(一川理事)

a) 正会員登録状況

- ・ 正会員(=JHA登録チーム)52チーム、登録人員1,601名(選手1,288名、役員313名)が登録されている。昨年41チームに比して11チームが増えた。【別紙1】を参照下さい。
- ・ 日本のホッケー競技者人口(=選手登録数)は10,000人で、東京がその12%強を占め、チーム登録数でも全国トップである。【表1】
- ・ 但し、東京の負の特長として中学生・スポ少の無い事が上げられる。他方、中学生・スポ少登録が人口減少県に多い事は、将来の日本ホッケーにとっての不安材料であると言える。
- ・ 欧州強豪国はオランダ、オーストラリアの20~30万人を筆頭に10万人以上であり、3.8万人のベルギーがリオ五輪で2位となった事が注目されている。

b) 競技役員登録状況

- ・ 競技役員・審判の登録は41名である。(H28年8月末現在)種別と併せて【表2】に登録状況を示す。全国比で極めて少ない事が判る。公認コーチ資格者の登録状況も併せて示した。【表3】

c) THA組織とJHAの関係

- ・ THA組織を【図1】に示す通りで、専門委員会制で業務執行を行っている。
- ・ THAは昨年度の登録チーム数から決められた(登録チーム数を8で割り、商を繰り上げる)6人のJHA正会員を出している。
- ・ ただし、THAからはJHA理事は出していない。THAを含む関東8都県協会で構成される関東ホッケー協会から山梨協会の寺本祐治氏を理事に推薦している。【図2】

d) 財務状況

- ・ THAの事業規模は1,500万円レベルであり、現在はほぼ順調に推移している。
- ・ THAホームページ(HP)の開発経費を30ヶ月の賦払いとし、HP運用経費3万円/月と合わせて50万円を計上している。
- ・ HP経費が本部経費のうち大きな比率を占めており、有効利用を図って行きたい。【表4】

【表1】ホッケー競技チーム・選手登録数

ランク	チーム登録数			競技選手数		
	県名	チーム数	全体比	県名	選手数	全体比
全体	全国	577			10,439	
	1位 東京	50	8.7%	東京	1,208	11.6%
	2位 岐阜	31	5.4%	岐阜	551	5.3%
	3位 京都	27	4.7%	京都	500	4.8%
	4位 栃木	25	4.3%	埼玉	411	3.9%
	5位 富山	24	4.2%	栃木	383	3.7%
高校・大学・社会人	全国	363			7,965	
	1位 東京	50	13.8%	東京	1,208	15.2%
	2位 岐阜、京都、大阪	16	2.8%	岐阜	402	3.9%
	3位			京都	356	3.4%
	4位			埼玉	337	3.2%
	5位 愛知	14	2.4%	栃木	311	3.0%
中学・少年団	全国	215			2,474	
	1位 栃木、富山	16	4.4%	福井	217	2.7%
	2位			栃木	181	1.7%
	3位 岐阜	15	2.6%	富山	171	1.6%
	4位 福井	14	2.4%	岐阜	149	1.4%
	5位 岩手、京都	11	1.9%	岩手	146	1.4%

注) JHAよりH28年8月現在の登録状況を入力した。

【表2】競技役員・審判数

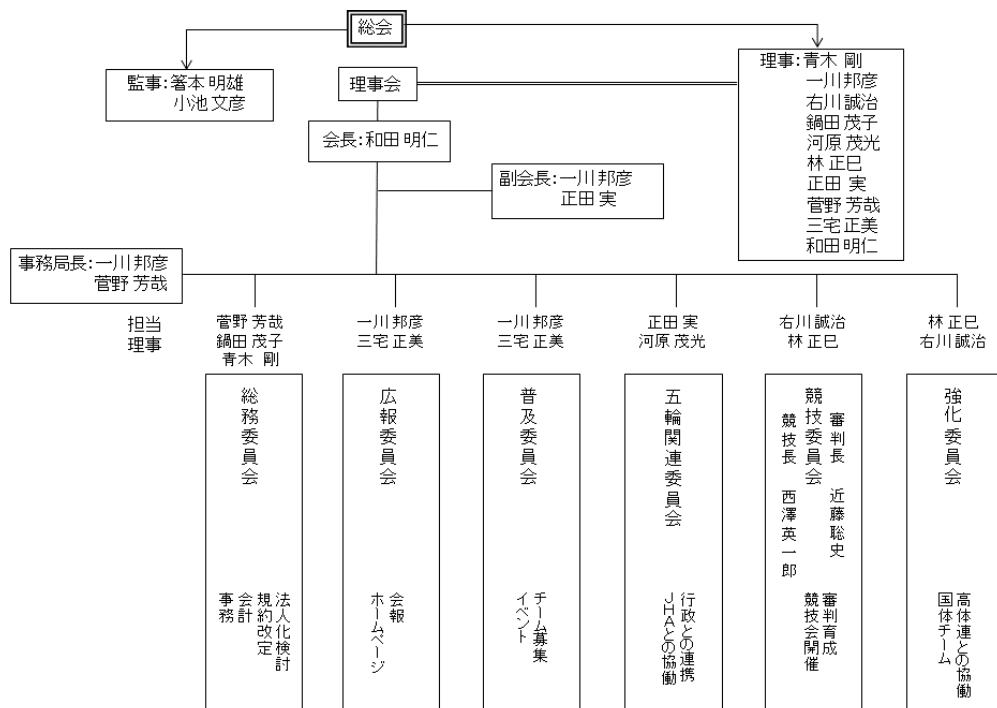
	人数	うち東京	東京/全国
TD	53	3	5.7%
TO	55	4	7.3%
J	422	3	0.7%
UM	28	2	7.1%
A	33	4	12.1%
B	220	9	4.1%
C	519	22	4.2%
計	1,330	47	3.5%

注) 資格を複数取得されている方がおられる。
東京の絶対登録人数は41名である。

【表3】公認コーチ資格者数

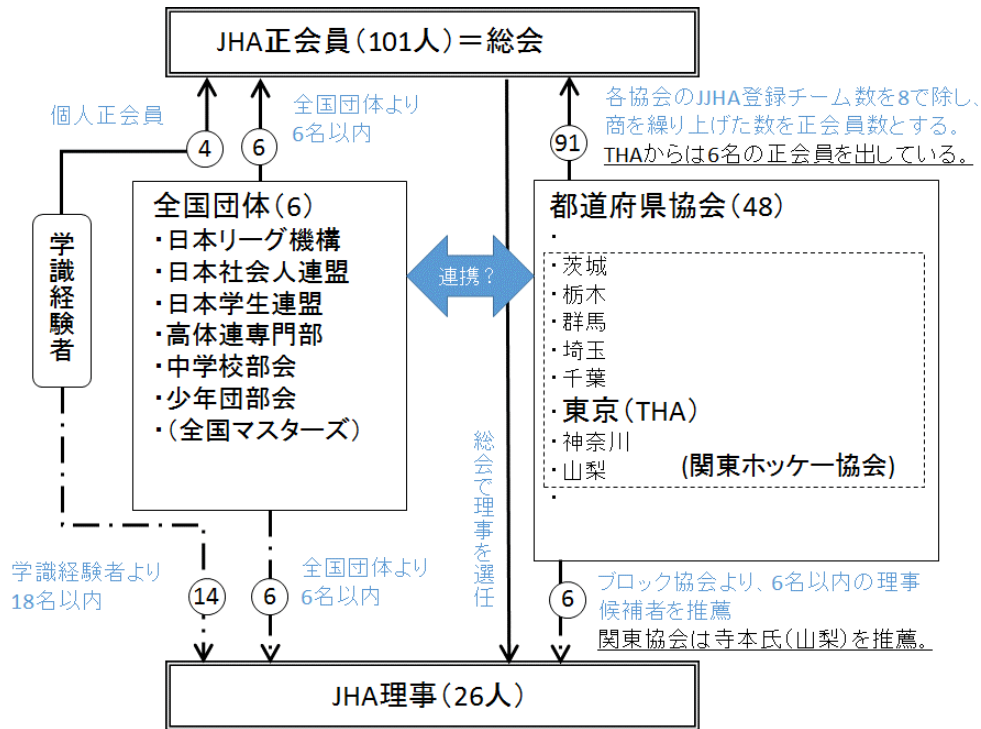
	人数	うち東京	東京/全国
上級コーチ	77	2	2.6%
公認コーチ	382	36	9.4%
指導員	198	7	3.5%
	657	45	6.8%

注) 数字は日本体育協会のH27年10月のデータである。



THA役職・組織図(2016/5/7現在)

【図1】



【図2】JHAとTHAの関係

【表4】平成28年度東京ホッケー協会予算見直し(=THAの事業規模について)

2016年10月1日
東京ホッケー協会

収入の部		支出の部		収支差額
本部経費	5,317,000		5,287,000	30,000
日本協会登録料	3,687,000	日本ホッケー協会登録料	3,687,000	0
日本協会チーム登録料	3,537,000	チーム	3,537,000	
日本協会審判員登録料	150,000	個人登録料	150,000	
東京協会登録料等	1,630,000	所属協会会費等	600,000	1,030,000
東京協会登録料	1,530,000	日本ホッケー協会	300,000	
理事負担金	100,000	関東ホッケー協会	70,000	
		東京都体育協加盟団体分担金	100,000	
		東京都体育協会協賛寄付金	130,000	
		本部経費	1,000,000	-1,000,000
		理事活動費(会議費・交通費)	250,000	
		HP運営費	500,000	
		その他経費	250,000	
事業経費	9,882,000		9,912,000	-30,000
東京都体育協会交付金	8,362,000	東京都体育協会分担事業	9,122,000	-360,000
国体予選会	110,000	国体予選会	114,000	
競技力向上(国体候補選手)	1,652,000	競技力向上(国体候補選手)	1,808,000	
競技力向上(ジュニア特別)	2,500,000	競技力向上(ジュニア特別)	2,654,000	
ジュニア育成地域推進	1,500,000	ジュニア育成地域推進	1,600,000	
関東ブロック大会派遣費	2,000,000	関東ブロック大会派遣	2,346,000	
五輪候補選手強化	600,000	五輪候補選手強化	600,000	
寄付金	400,000			
	400,000			
その他受託事業	1,100,000	その他受託事業経費	770,000	330,000
品川区関係委託費	800,000	品川区関係経費	560,000	
大田区関係委託費	300,000	大田区関係経費	210,000	
その他	0	その他	0	
東京ホッケー協会独自事業	20,000	東京ホッケー協会独自事業	20,000	0
ジャッジ講習会	20,000	ジャッジ講習会	20,000	
収入計	15,199,000	支出計	15,199,000	0

(2) 普及活動（正田理事、河原理事、三宅理事）

- 品川区では品川区役所オリパラ課、子ども育成課、地域活動課、教育委員会、品川スポーツ協会等と普及活動を進めている。指導には藤尾香織さん等オリンピック、メトロ東京・桜杖会・FHMCの選手はじめ多くの方々の協力を得ている。
- 今後、益々イベントも増える傾向にあり、スタッフ（＝委員）や協力チームを増やして行く必要があるため、皆様のご協力をお願いしたい。
- 大田区も遅まきながら活動を開始している。
- 東大で行っている「ジュニアホッケー教室」も6年目を迎え、参加人数も増えている。

【表5】品川区・大田区の行事一覧

品川区行事一覧(2016年度)

担当セクション	内容	実施日	時間	会場
オリ・パラ課	品川区ホッケー教室	6月25日	13:30～15:30	台場小学校
		7月23日	13:30～15:30	小野学園
		9月24日	13:30～15:30	小野学園
		10月22日	13:30～15:30	しながわ中央公園
		11月12日	未定	大井ふ頭中央海浜公園
	ビーチバレーフェスタ	9月18日	11:30～17:00	
	大井どんたく祭り	8月27日	12:00～16:30	大井町駅前
	教育委員会	12月3日	午前中2時間	後地小学校・79名
		1月21日	〃	富士見台中学校・70名
		2月4日	〃	清水台小学校・86名
2月18日		〃	中延小学校・67名	
3月4日		〃	荏原平塚学園・71名	
子ども育成課	ジュニアリーダー教室	9月18日	10:00～12:00 13:00～15:00	しながわ中央公園
地域活動課	区民祭り	7月16日	15:00～17:00	八潮公園多目的広場
		7月30日	15:00～17:00	城南小学校
		8月21日	13:00～17:00	品川学園
	青少年対策地区委員会60周年	11月13日	10:00～15:00	しながわ中央公園
五反田商店街	五反田フェスティバル	7月24日	未定	五反田駅前ロータリー
	浜川まつり	9月3日	13:00～16:00	浜川中学校
品川区スポーツ協会	スポーツ祭り	10月10日	13:00～16:00	品川体育館
	ホッケー観戦&体験	11月3日		慶應日吉
品川観光協会	品川区観光フェア	10月29日	11:00～17:00	大井町駅前
		10月30日	11:00～16:00	

大田区行事一覧(2016年度)

担当セクション	内容	実施日	時間	会場
オリ・パラ推進	区民スポーツまつり	10月10日	10:00～12:30	大田区総合体育館
仲六郷小学校	仲六郷小学校	11月19日	8:40～10:15	仲六郷小学校

(3) 強化活動（林理事）

a) 2016 国体に向けた東京都チーム強化の取り組み

- ・ 今年度から新たな組織体制となり、2020 年の東京オリンピックを見据え、「強い東京」となるチームづくりを目指していくこととした。
- ・ 強化委員会の下部組織として、国体の本戦への出場を目指すために特化する「国体強化委員会」を設置し、関東ブロック予選までの運営を行った。
- ・ 「国体強化委員会」で、監督・コーチを任命するとともに、選手選出については選考会を開催し、監督・コーチが選出を行い、「国体強化委員会」が承認する方式とした。
- ・ 成年男女は、今後の東京チームの強化の観点から、多くの候補メンバーを公募し、選考会方式により、国体候補選手を選考した。
- ・ 少年男女は、都高体連と調整を図り、高校側の意向を踏まえた取り組み方針を示したかったが、時間的に不足するところがあり、目標設定／目的意識、選抜／単独、2／3 年生問題等課題が残った。
- ・ 各チームの監督・コーチにより、今年度の活動方針を示し取り組みを行った。

b) 関東ブロック大会成績報告

- ・ 大会成績は【表 6】の通りで、いずれの種別も本戦出場は果たせなかった。
- ・ 手前味噌になるが、新体制の中で未経験が多い中で、無事関ブロに出場出来た事だけでも今年は成果だったと思う。特に総監督・監督・コーチの皆様にはお忙しい中、またご自身のチームを持っておられる中で大変献身的な努力をしていただいたと感謝しています。
- ・ 以下に各種別の監督のコメントを【表 7】にまとめる。

【表 6】国体関東ブロック大会東京都チーム成績

チーム	結果	勝敗
成年男子	2 回戦敗退	対神奈川（7－1）、対埼玉（0－4）
成年女子	2 回戦敗退	対千葉（4－0）、対埼玉（1－7）
少年男子	1 回戦敗退	対埼玉（1－3）
少年女子	2 回戦敗退	対茨城（0－0、SO2-1）、対栃木（0－17）

c) 東京アスリート認定制度

- ・ THA 正会員から U21 日本代表候補選手に選ばれた明治大学 谷光未有選手と早稲田大学女子 南有紗選手の 2 選手を「東京アスリート」に推薦し、東京都より認定された。
- ・ 「東京アスリート認定制度」について詳しい事は下記 HP をご覧ください。
<http://www2.sports-tokyo.info/>
- ・ 東京アスリート認定式には明治大学宮田監督にもご出席いただいたが、宮田さんのお話では競技団体によっては小学生を推薦しているところもあるという。
- ・ 東京アスリートに認定されると、競技団体に対して最大 150 万円（＝最大 5 名、1 名当り最大 30 万円）が交付される。今回は 2 名の推薦に止まったが、今後は選考基準を明確にして、是非、幅広く有望人材を発掘して行きたいと考えている。

【表7】2016年度 国体に向けた取組み総括（監督コメント）

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
強化練習回数	◆強化練習3日 ◆遠征合宿2日（福島）	◆強化練習7日	◆強化練習5日間	◆強化練習5日
強化練習取組み等	5月の選考会後、6月末からの強化練習を3日、8月に福島遠征合宿（1泊2日）を実施した。 関東プロテック大会までの短期間の取組みになるため、練習試合を中心に強化を図り、明治大学、東京ガス、福島宮城選抜と約10試合を行った。	6月に選考会を行い、その後強化練習を7日実施した。 関東プロテック大会までの短期間での取組みになるが、出来る限り練習日を多く設けた。 練習試合は、神奈川県成年女子、東京ガスB、早大学院、少年女子を相手に実施した。	例年の強化日数に比べると実働日数が少なかった。 これは協会の体制が固まるのが遅れたことに端を発し、選手選考方法の擦り合わせに手間取り、選手そのものが非常に遅れ、その結果強化練習・合宿スケジュールの策定に支障を来した。	関東大会終了から1週間後の6/19に選考会を開催した。 高校生のテスト期間が終わった7月中旬から毎週1回、計5回の強化練習を実施した。 練習日・練習場所が限られていることから、全ての強化練習で練習試合を行い、強化をはかった。
関東プロテック大会について	1回戦神奈川選抜に7対1と勝利するも、2回戦埼玉選抜に0対4で敗北。決勝では山梨選抜が埼玉選抜を破り本大会出場を決めた。埼玉選抜との試合を振り返ると、4点差の力の差は否定できず、次年度に向けた課題は大きいと認識している。	1回戦は千葉県に4対0で快勝したが、2回戦は山梨県に1対7で敗退。決勝では、その山梨県が栃木県に勝利し、本大会の切符を獲得した。 山梨県相手に得点した事が収穫であるが、勝つために次年度に向けた課題を解決していく必要がある。	優勝した山梨県の他、栃木県、神奈川県、埼玉県との地力差は明白であること。千葉県、茨城県、群馬県あたりに勝利しても然程の意義は無い。	1回戦は茨城県と対戦し、0-0（S02-1）と天然芝のグラウンドで苦しみながらも辛勝した。2回戦は栃木県と対戦し、0-17と大差をつけられての敗北となった。（栃木県が本大会の出場権を獲得） 1回戦をS0で勝つことはできたが、関東プロテック予選をおして点数を決めることができず、2回戦も大量失点での敗戦と厳しい結果となった。
課題等	関東プロテックは、日本リーグ参戦の山梨・埼玉・栃木が出場する激戦プロテック。 ①人材確保（ふるさと制度による人材流出） ②強化期間（各種リーグ及び大会を考慮した強化日程設定難）及び費用（合宿及び遠征費用） ③上記課題①②を踏まえた年間活動の実行	関東プロテックは、日本リーグ参戦の栃木県・山梨県が出場する激戦プロテックであり、人材確保（早めに応募もしくは指名）が重要である。 また早めに各種リーグ及び大会を考慮して強化日程を決める必要がある。費用を確保し、合宿・遠征等を行う。	「強い東京」を実現するための戦略を具体化させるために、各カテゴリー毎の議論を実施すべきである。 → 長期的な普及は必須であり～その間の繋ぎの戦略～最終目標をどこに置くのか？	①人材確保：ジュニア教室参加者を出できたのは一つの成果ではあるが、経験が浅い東京都の高校生メンバーが中心となる。受験を控える中ではあるが、経験値が高い3年生に数多く選考会参加して貰えるようにしたい。 ②練習場所と練習期間の確保：チームとしての練習場所がなく、短期間でチームを作る必要があるため、練習試合を組むことでしか強化をはかることができなかった。スケジュール決定にも時間がかかった。 ③基礎力の向上：全体的に基礎力が低く、他県と互角に試合をするのは厳しい状況である。年間をおして（長い目で見て）、高校生の基礎力を上げていく必要がある。

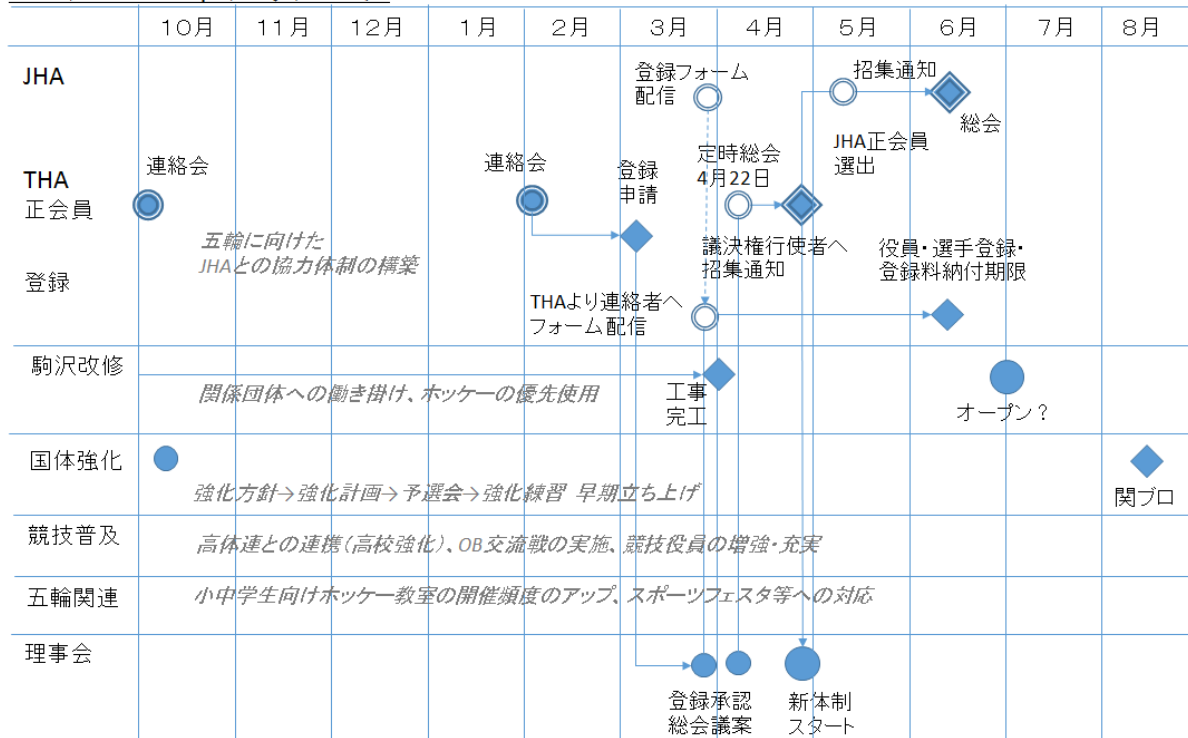
4 今後の取進めについて

(1) 今後のスケジュール (一川理事)

- 今年度下期～明年度上期のスケジュールで予測できるところを記すと【図3】のようになる。その間の主たる課題も図の中に記した。

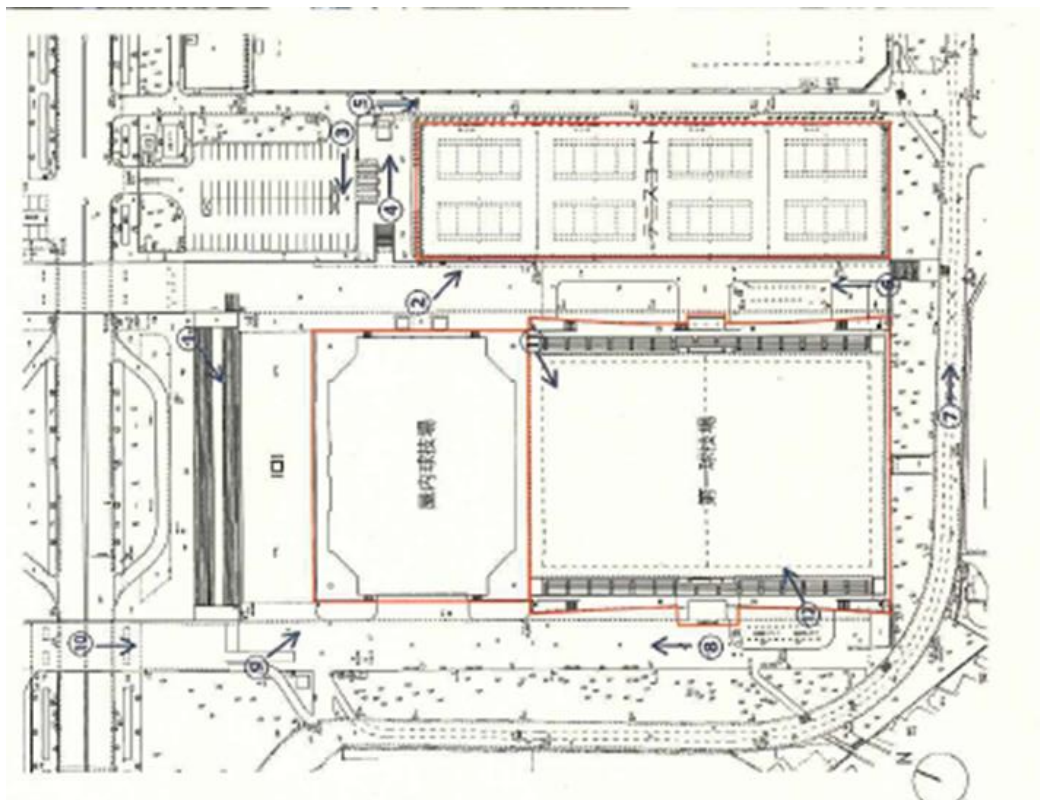
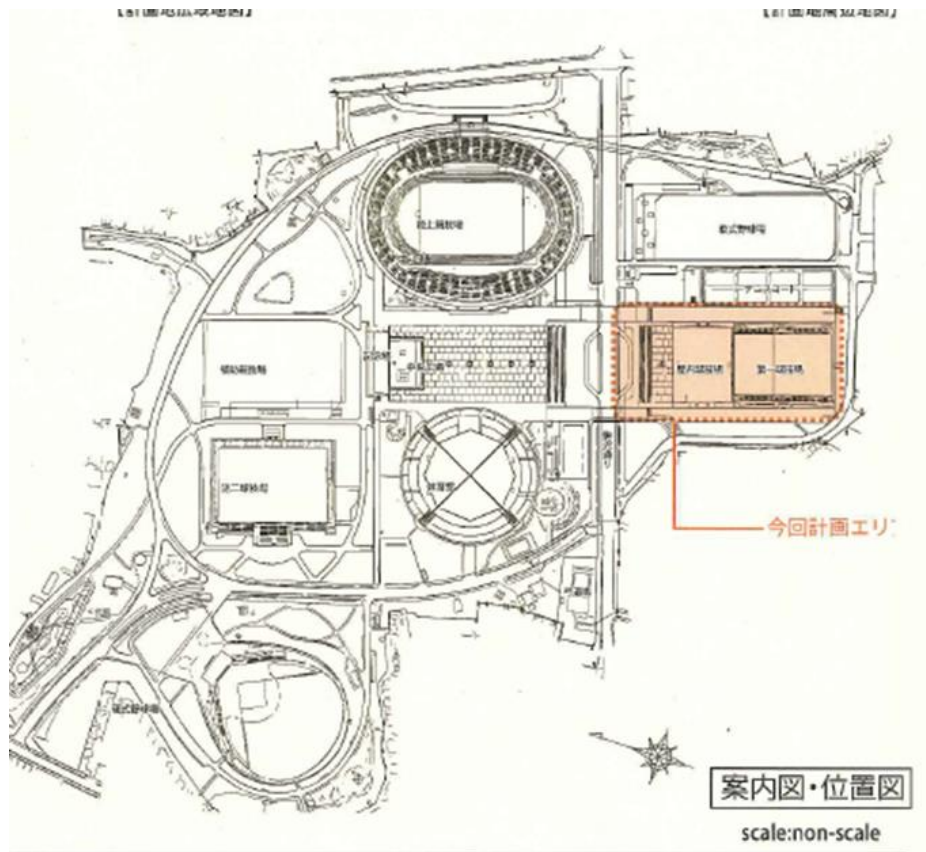
【図3】

THAの2016～17年のスケジュール

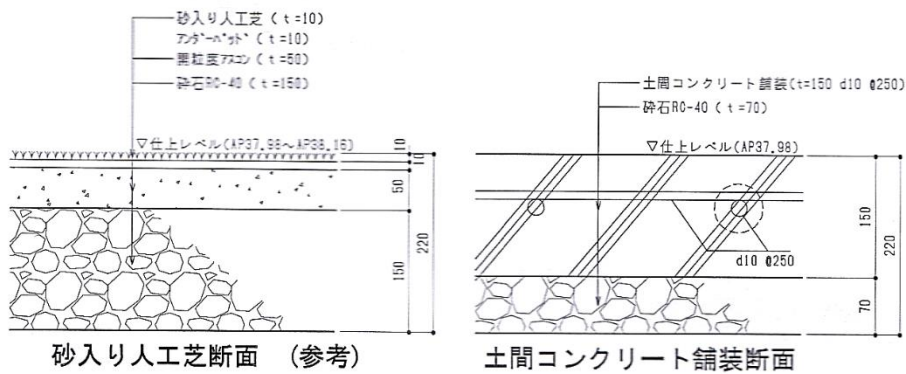
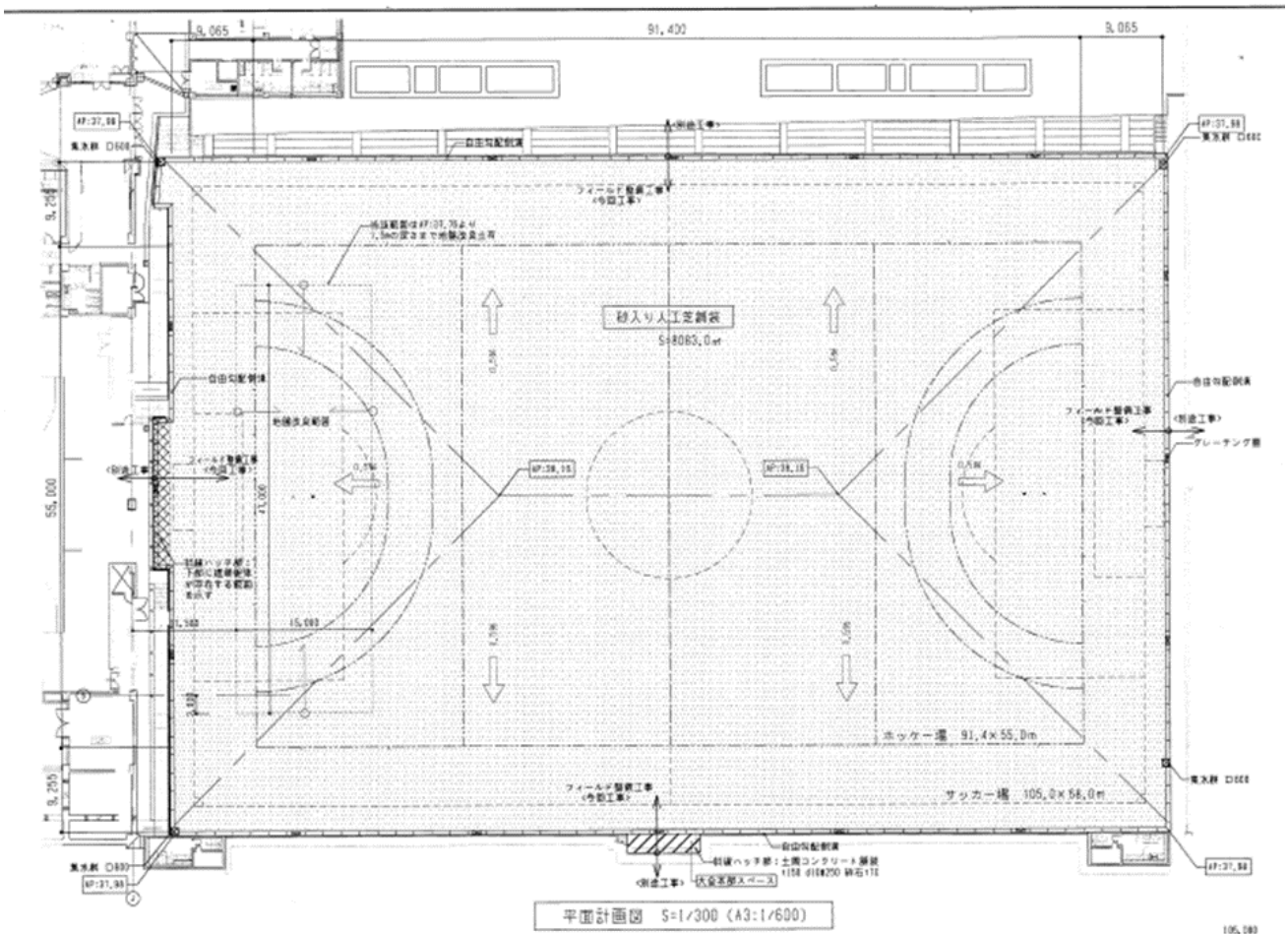


(2) 駒沢球技場の改修工事について (一川理事)

- 東京五輪 1964 のホッケー会場であった駒沢球技場の改修工事が今年度末竣工予定で進んでいる。ピッチ面積はサッカーが可能な大きさに拡張され、ホッケー、サッカーのラインが描かれる。
- 敷設される人工芝はサンドではあるが、ホッケー用のショートパイルで、芝種は今春張替えられた明治大学、社会人大会の開かれた愛媛県松前町のグラウンドと同質のもので、サンドではトップ・クラスのものではないかと思われる。
- 主工事は今年度末に終了するが、南側に 10m 高さの防球ネット設置工事が未だ決まっていない。この工事が完了し、都議会での貸出料が承認される 7 月以降に使用開始となる見込みである。
- 付帯設備として観客席が東側に 1,000 席の椅子席、西側に同面積の芝生席があり、椅子席の下には主賓・役員・審判控室、救護室、放送室等も設置される模様である。
- 「駒沢第 1 球技場」は「(公財) 東京スポーツ文化事業団」の管理下にある「駒沢オリンピック公園総合運動場」の 1 施設であり、都民にスポーツに親しむ場を提供する事を目的とする施設である。したがって使用申し込みは基本的に抽選となる。
- THA としては大井海浜公園の五輪施設が建設され、五輪が終了し、一般の競技会に開放されるまでの間、駒沢球技場を東京のホッケーの普及・発展・強化の拠点として、ホッケー競技の優先的な使用を認めていただきたいと願っている。
- JHA はもとより関係団体及び皆様のお力をお借りし、働きかけて参りたいと思う。



【図4-a】駒沢第1球技場配置図



路面断面図 S=1/5 (A3:1/10)

- ※ JHA公認フィールドテスト性能要求基準(ナショナル規格)を満足し、公認取得が可能となるフィールド性能を確保することを条件とし、上記の砂入り人工芝舗装断面図は監督員との協議による。
- ※ 日本サッカー協会 人工芝指定企業連絡協議会 会員社の人工芝を使用すること。
- ※ 公認の取得に当たり、一切の技術的な支援協力をを行うこと。

【図 4-b】 ライン敷設及び人工芝仕様



【図 4-c】 駒沢第 1 球技場完成予想図

(3) 主催・共催大会運営と競技役員の増員について（右川理事）

- THA としては今後 2017 年の駒沢利用から東京五輪 2020 後の大井五輪施設の後利用に向けて、THA 主催の大会を出来るだけ多く実施したいと考えています。
- そのため、シニアからジュニアまで幅広く活用できる環境整備を目指します。
- 大会は運営者、競技役員、チームが揃ってはじめて成立します。THA の課題は審判、競技役員の増員と大会運営ノウハウの向上および実際の大会運営を実施し、経験値を高める事です。
- P2 の【表 1】【表 2】を見ていただくと、競技者人口に対する競技役員数の割合が 全国 12.7% に対し東京 3.8%と極めて少ない事が判ります。競技者比率から単純に計算すると、今後約 100 名の競技役員・審判有資格者を作らねばなりません。
- 8 月に行ったジャッジ講習会では 6 試合で 7 名の認定を行ないました。2 日、6 試合で 7 名のジャッジが生まれる勘定だと、資格認定のための試合を 100 試合、準備する必要があります。
- 平行して大会や競技場利用案を具体化して参ります。シニア大会開催、都高体連・関東学連・東日本社会人連盟との連携強化も必要だと考えています。
- 各チームのご理解ご協力をお願いします

4 質疑・意見交換（以下、敬称略）

(FHMC)

都民のための普及を考えた場合、現在東大でやっているジュニア教室のような取り組みを、グラウンドを持つその他の大学でも行えないものか。

(三田クラブ)

日吉でもキッズスクールの取り組みをおこなっているが、対象が限られ、開かれたものにはなっていない。グラウンド使用時間の確保が困難という事情が根底にある。駒澤競技場の活用が有効かもしれない。

(明治大学)

今後、品川区では明治大学グラウンドへの観戦ツアーが、予定されている。これなども、良い宣伝になると思う。2017年10月にはマスターズのアジア大会も日本で開かれる。概ね60歳以上が対象。普及に役立てられるのではないかと。

(早大学院)

早稲田でもジュニアを対象にした教室の開催を検討している。安全面のノウハウや様々なルール作りが重要になってくると考えている。

(早稲田大学)

グラウンドの外部使用には大学の許可が必要であり、一つのハードルになっている。正式に申請すれば許可されるとは考えているが。

(学芸附属)

駒沢や大井を活用して、学生チームが自己使用するとジュニアの指導を行うのをパートナー（抱き合わせ）とするのも一法ではないか。指導料の一部をチームのグラウンド使用料に当てることで、双方のニーズ（学生：練習場所の確保、ジュニア側：指導者の確保）を満たすことができる。

(THA 理事)

グラウンドを提供する形での貢献と、指導者としてマンパワーを提供する形での貢献とが考えられる。現状では場所の確保が一番のネックになっている。以前に都から大井グラウンドの活用状況の見直しについての問い合わせがあった際に、各チームに照会したことがあるが、大井グラウンドができれば、現在各チームが行っている阿須での練習はほぼ大井にシフトする見通しであった。

(THA スタッフ)

東大でのジュニア教室に自分も息子とともに参加している。毎回多くの子供たちが集まってきている。このような取り組みが核となって、そこから回数や参加者などを広げて行ければ良いのではないかとと思う。

(桜杖会)

品川区のイベントで今までに4回指導を行った。その経験からすると、その時は盛り上がるのだが、チームなどで日常的に継続して活動する機会がないため、点としての体験にとどまっている。ジュニア教室など、継続して参加できる場の提供が必要である。レベルに関わらず、チームとして試合をするのも効果があると思う。

(THA 理事)

継続して教室をやっている、チームを作るというところになると、ハードルが高い。スポーツ少年団を立ち上げるといった話まではなかなか行かない。

(THA 理事)

品川区の日野学園では、今日は来られていないが保護者の方が中心となり、すまいるスクールの名の下に何回か継続して教室を開催している。大変熱心に取り組んでくださっている。ただ、PTAとしての活動であり、学校としての公けの活動とはなっていない。

東大のジュニア教室では、年度代わりのときなどに子供が来なくなったりする。中学受験のために来なくなるという話も聞く。すごくやる気のある子供が飯能に通っているというケースもある。

そういう意味では、中学にチームがないと普及の受け皿としては厳しいのではないかと。

(学芸附属)

中学にチームがないのであれば、むしろ地域チームを立ち上げる方が早いし、良いのではないかと。複数の学校にまたがっていても、3人と3人が集まれば6人制に参加できる。

(メトロ東京)

「メトロ東京」は、クラブをNPO法人化した。指導も含め活動の幅を広げていこうとしている。地域チームを作って行くことについても見据えていきたい。

(F HMC)

マイホッケーカップというイベントがある。THAとしても、これとタイアップする等して裾野を拡大していくことも考えられるのではないか。

(津田塾)

(マイホッケーに関与している立場から) イベントの告知等を担っていくことは可能。

(学習院大学)

参加してくる子供たちの目線に立って見ると、中学に進学してからも何らかの形でホッケーを続けられる環境が整っていることが大事だと思う。インドアといったことも考えられる。

(東京大学)

東大ではジュニア教室のほかに、グラクソの方の指導のもとでジュニアクラブという活動も行っている。外国人の子供たちが多数参加している。栃木に交流に行ったりもしている。東大グラウンドで行っているが、他の大学の方にも指導者という形で是非参加してほしい。

(志木クラブ)

指導者の掘り起こし、マンパワーの確保が大事ですね。

(THA 理事)

シニアの活動について。都では競技スポーツ課とは別に、生涯スポーツ課というセクションがあり、シニアの活動は都としても関心の高いところである。

五輪開催を機に、ぜひ都内 23 区にチームを作り、駒沢・大井のグラウンドを活用していく戦略が重要である。またシニアの活動とジュニアの活動との連環が良い相乗効果を生むことを期待している。



【写真 1】 連絡会の様子